

昭和三年二月十六日第三種郵便物認可（第九一四一）日發行

聖書之真理

第四十五號

七月號

主筆 江原萬里

信仰の義

書翰に現はれたる内村鑑三君

クロムウエルの生立ち

イスラエルの民の背反

輓近考古學と舊約聖書

ノアの洪水に就て

自由を失ひし人

勤勞の生涯と一雙の屏風

柏木通信

新著批評 編輯餘録

主筆

宮部金吾

江原萬里

江原萬里

小栗襄三

藤本武平二

江原萬里

齋藤宗次郎

昭和六年七月一日發行

新著批評

私は友人から新著につき多くの感想を寄せられその好意を感謝して居る。こゝにその一つを掲載する。

近著『聖書の現代經濟觀』御送り下され雖有拜受いたしました。

(中略)

過日も申上りました通り、僕の如きは年をこる程度し難き人間となつて行き、いづれ貴兄等には全く仕方ない糞土の墻の類であらうかと思はれますが、しかし貴兄のやうに高らかに人生を味ひつゝ、生存され、しかもそれを戦ひぬかれる態度を見るに何れも云へず愉快で頭が下りません。僕の如きも矢張何となくそう云ふ事が好きで——理屈はごうであつても人間至上の念願であるやうな氣がしてならぬ。その意味で貴著は僕にまつては教へられる書であるとは云はぬが、うれしい書であるやうに思へる。その意味で親しみ易いのだ。尤も聖書のことは少しもわからぬが、貴兄が俗界のこゝを語られる時は大抵の意味は僕に通じる。そしてその限りにおいても亦同意見でなくとも同感ができることが可なり多い。

一般に云へば貴兄の思想は僕が理解し得るよりは遙かに詩的であり、遙かに主觀的である。しかしそれだけ元氣がよく、生命に満ちて居る。

とにかく、愉快なる友と愉快なる事を語るために、僕は讀書の餘暇さきさき貴著をあけて見ることを楽しみにしてゐます。今またまつた一書を得て之を大切に座右におきます。謹んで御禮を申

のべ、愚感をありのまゝに申し上げます。妄言多謝々々切に御自愛を祈上ます。その内久し振に鎌倉へも行つて見たく一度御訪れもしたいと願つてゐます。奥様にもよろしく御大切に。早々

六月六日

大内兵衛

江原學契 侍史

大内君は知名の東京帝國大學教授、我國のマルクス經濟學者中の大家の一人である。そして私は十年近く其の親交を受けて居る。私は此の書翰を得て非常に嬉しがつた。それは經濟學の造詣に於ては私は到底大内君の足許に寄つけないが、大内君は其の學問以上に廣い心の所有者であつて、私と學問上の意見を異にするに拘はらず、人間として何物かを共通にし、相互に尊敬し親しく交を續け得る事を知つたからである。

私の思想は大内君の云はれるやうに純粹科學の立場からせば確かに詩的であり、主觀的であつて、私はその批評を是認する。然し此の詩的であり、主觀的である思想に一度學問を離れ人間としての立場に立つ時相互に同感があり得ばそれは又客觀的であり普遍的であるとも云ひ得る。信仰は一面詩的であり、主觀的であるが他面客觀的であり、之が科學の研究は可能である。

但し信仰には凡てを自然的因果關係によつて説明しやうとする學問的研究の範圍内に收まり得ないある物が存在する。私が本誌で力説する『恩惠』はそれである。それは直接神の生命の奥底の深淵から直ちに我らの靈魂に入り來る一つの力である。我らには之によつて自然的因果關係以上に永遠の世界の存在を確信するのである。直接之に接觸する宗教心理學ですら、其の學問が取扱つて居る人間の宗教心の範圍では此の洪大無邊の宇宙の僅かなる斷片を知り得るに過ぎないこの感を生ぜしめる。まして社會的諸科學、自然科學では殊更そうである筈だ。

聖書之眞理

第四十五號

昭和六年七月一日發行

信仰の義

『あなたが祈られる時果して正面に神を仰ぎ見、神に對して語りますか、それとも眼を閉ぢ、眞暗闇のうちに瞑想し、只獨り言を云つて居るのではありませんか。祈るときあなたの心は燃え、精神は高められ、神に對して感謝が溢れ來て、生命の生命、愛の愛、義の義であり給ふこの神にこそ我が身も魂も妻も子も悉く獻げて仕へんどの熱心が起りますか。それとも、その祈りは何の手答もなく、空しく我に歸へり來り、神は實在し給ふや心の奥底で根深い疑が頭をもたげはしませんか。あなたの宗教はあなたの實際の生活でありますか、

それとも道樂、概念の遊戲、氣安め、社會主義者の罵倒する阿片に過ぎませんか。神が眞實臨在し給ふことの確證はどこに在りますか。以上どうしたならば神と語り得、之に信賴し、力を得、前途に大なる救の希望を有ち得るか、我等熱心に神を求め、又現在神を信じつゝある者にこつてかゝる質問程眞劍な質問はない。

私は神に祈るときいつでも神を私の眼前に見奉ることは出来ない。その御姿に觸れる事は絶対にない。然し乍らいつでも私は私の救主、私の神に對する罪のために死して甦り給へる活けるキリストの御姿を仰ぎ見る。彼と語り、彼の愛のうちに生き、彼に我が全生命を托し得る。彼の愛を思へば思ふ程私の心は燃えて來る。精神は高められる。永遠の希望が輝き出る。私は確かに神に義とせられ、私の祈りは神に聽かれたことを確信する。私は神を知り、神を見る。神を見ることは神を眼のあ

たりに見奉ることではない。神が萬物を、そして又私自身を見給ふやうに、その如く萬物と私自身を見るやうになることである。

私にはキリストなくして神と此の靈の交際は無い。キリストを信する時いつでも彼は私を助けて神に導き、神と此の關係に立たしめ給ふのである。私も亦パウロが云へる『我らは人の義とせらるゝは、唯キリスト・イエスを信する信仰に由るを知りてキリスト・イエスを信じたり』(ガラテヤ書二・一六)と明言し得る。此の外に神の實在の確信も私の救の確信も生じない。

天地萬物は或は我等が今見るやうなものではなく、我等は夢を見て居るのかも知れない。嘗て莊周が夢に胡蝶となり、目醒めて後自己を疑ひ、胡蝶こそ眞の莊周で、今自分を莊周と思ふのが夢ではないかと思つたと云ふ、私が私自身を見てかゝる者と思つて居るその私自身も莊子の胡蝶と同じやう

なものかも知れない。然し乍ら假令萬物は悉く虚無であつても、又私自身の存在は一時のものであつても、私には今現に活きて私を愛し己が生命を與へ給ふイエス・キリストの實在を疑ふことは出来ぬ。『今われ肉體に在りて生くるは我を愛して我がために己が身を捨て給ひし神の子を信するに由りて生くるなり』(ガラテヤ書二・二〇)である。

イエス・キリストが私と同じやうに人であり給はねば私は彼をか程まで眞とはしない。彼自身のうちに私の情、私の念悉くが存し、人間としての弱さと誘惑を知り盡し、然かも父なる神に信賴することに由り之に打克ち給うた彼ありて神を拜し得るのである。彼を信じて神に義とせられ、神を知る。それ故彼は人にして又神でなければならぬ。唯の人では私を神と此の關係に導くことは絶対に不可能である。彼の證しをなすことが私の一生の仕事である。

書翰に現はれたる

内村鑑三君（下）

宮 部 金 吾

同年九月二十九日アマスト大學に入學せられましたが、其所から翌年十月六日附にて

正直に言へば、僕は米國へ来て殆ど何物をも得ません。然し自分自身を最も明かに知ることが出来且つキリストに現はれたる神の豊盛さを體驗することが出来た。僕は君が九年前「イエスを信ずる者の契約」に署名することを切に勧めた時には基督教に斯の如き光輝と充實があらうとは思はなかつた。信仰に由つて救はるゝと云ふ知識の如何に sweet であるよ。僕はしばしば讚美の歌を高唱す。僕の小さな心の中に其總てのゆたかさを含むことが出来ない。

又十一月三日アマストより

僕も同じ様に常に只獨りである。僕の唯一の友は古きバイブルである。そして僕の唯一の同情者は天父である。時に生命それ自身が重荷の様に感ぜられる。然し

十字架上に罪と死を釘つけられた彼の御名に對し感謝す。彼にすがり着いて居る間は此世は吾々を苦しめない。キリストが吾が心中に宿らるゝなれば、何ものも僕は欲しない。

聖書を生物學等に調和せんとした夢は今僕の心より消失した。人間の靈魂の救済は原形質等と共に取扱ふには餘りに重大な問題であると思ふ。進化論に依て基督教を證據立て様とした過ぎ去つた日の romantic idea を僕の心より取り去らねばならぬ。

而して翌千八百八十七年明治二十年七月アマストを去らんぞする前に

唯一人で吾同級生等と全く方針を異にした目的に向つて猛進するにあたり一層の寂寞を感じざるを得ない。然し僕は決して一人ではない。吾身の内にキリスト宿り給ふ實感が益々加はり行く事は、一萬の友と共働者とを得たよりも有り難く感じます。

此處には九月十日まで滞まり、それよりハートフォード神學校に入學、歸朝の曉には教養ある善き牧師たらんとす。

さて益々深き信仰に進み、傳道の生涯に入らんとしハートフォード神學校より翌明治二十一年一月

四日附にて

今神學を學びつゝある。ギリシヤ語、ヘブル語に最も力を込めて居る。僕は教養ある善き教職者たらんことを望む。

この書を寄せられました、四ヶ月にして其處を去り、再びエルウインより二月十七日附にて

神經衰弱症に罹り不眠症の爲め悩まされ遂に退學してフライデルフイア附近をうろつきつゝある。數週間の後歸國の途につくべし。三月三日ニューヨークよりバナマ、サンフランシスコを経て歸る。

旨を告げて來ました。

歸朝後、新潟北越學館に、東京麻布英語學校に青年の教育に従事し、明治二十三年第一高等學校の囑託講師を命ぜられ、こゝに約一年全力をそゝいで歴史を講じ青年の教化に盡しましたが、偶々明治二十四年一月九日所謂不敬事件が起つて其所を去らなければならぬ事となりました。さてその事のありし前日に認めた書簡に

札幌獨立教會々員の籍より除いて貰ひ度い。其理由を申述べることは好まない。若し其を知らせるなら君は僕を憐み僕の爲に泣くであらう。唯其理由は決して輕くないと云ふことを信じて貰ひ度い。僕は其理由でないことを告げやう。僕の信仰上の確信と札幌教會の信仰箇條との間に何等の相違は無いのです。又其教會に對する僕の愛と執着の減退したこともない。僕は其教會の友人中最善なる者の内に加へて貰ひたい。其成長發達又神の御用に立つ様祈つて止まない。

今僕の唯一の仲間はず實なる妻である。彼女は無學であるが、キリストは受入れて下さる。

ごあります。嘉壽子夫人は此迫害の最中に病を得て遂に逝去されたので、誠に悲痛の極と言ふべきであります。

明治二十五年一月十四日東京より

神の外誰にも依り頼まない生涯にはいつた。十年前寄宿舎の室を分れたる時僕等二人は斯くも異つた方針を取らうとは思はなかつた。種々な點に於て僕は君より遙かに進んで居ると思ふ。天國に行つた時僕は君が此世に於て曾て學ばなかつた多くの事を教へる事が出来やう。

そこで君は菌類の胞子だ何んだと云ふ事を僕に話すだらうが、僕は其内に Humanity のあることを指摘するてあらう。

是より五年間内村君は關西地方に在つて専ら著述に従事され、後世まで残る多くの名著を著はされました。二十九年より三十六年の秋まで萬朝報の記者となり専ら其英文欄を擔當されました。三十一年より三十三年の秋まで『東京獨立雜誌』を發行し、三十三年九月より『聖書の研究』誌を發行し、三十年間内村君の死に至るまで其を繼續されました。

内村君は實に一世の文豪と稱して可なるもので、此度其全集が世に公にせられた曉には、實に世人をして其著述の大量なるに一驚を喫せしむることと思ひます。

クロムウエルの生立ち (下)

江原萬里

幼時

オリバーは此の母の五番目の子として生れました。前申す様に、彼は二百年の永い間僞善者、奸雄、國賊として有ゆる汚名を蒙つて居ましたため、彼の傳記はカーライルの著述の出るまでは何れも皆その幼時から悪行の連續の様に書綴られて居ました。その幼時夢に幻影が顯はれて『汝をして英國で最大の者たらしめ、王に次ぐ者とする』と云つたとか、小學校で群童の餓鬼大將となり、頭に王冠を戴き、王の聲色をつかつたとか、大學時代に飲酒、賭博、争鬪を事としたとか、根も葉もない空々しい事が書き連ねてありました。此等は少し詳細に調べて見ると何の根據もない事がわかりました。彼が幼少の時のことで正確な記録に載つて居り、

信賴するに足る事實と見得るものは只一つしかありません。それは彼の郷里なるハンチングトンの村塾でベアード博士と云ふ清教徒の教師に教はつたと云ふことであります。此のベアード博士はラテン語でロマ法王を僞ヒキキリストとした劇を書き、又『神の審判實現の劇場』と云ふ書物を著して、神は人の犯したごんな罪惡でも悉く來世を待たず現世で之を罰し給ふ、假令王侯と雖もこれを免れることは出来ないこと云ふ事を餘り正確ではない歴史上の事實を列擧して當時の人々を感銘せしめるやうに述べました。

ベアードは嚴格な教師で兒童教育に鞭を使用することを忘れませんでした、クロムウエルは常に師を尊信し、後年議會で、ある監督が舊師の説教に干渉し之を中止し譴責したことの不當を論議しました。彼は其の後の實生活で師の教の粗雑な點は之を訂正する必要があることを學びましたが、

舊師の清教徒主義の教は深く彼の心に銘じ、事の成るご成らぬごは神が之を嘉し給ふや否やに因る、世の出來事は細大漏さず悉く天よりの恩恵又は怒の顯はれであること云ふ信念は少しも動搖せず、幾多の經驗をする毎に益々それを強めました。彼が王軍の再起の力を奪つたネースビーの戦や、スコットランド軍を撃破したダンバーの戦の大勝利は、神が彼の志を嘉納され、彼を用ゐて神の御榮を顯はし給うたのであること固く信じました。そして議會への報告に其の信念を披瀝しました。これ彼が一生を支配した信念であります。

大 學 時 代

クロムウエルは十七歳の時、ケムブリッジ大學の或るコレツヂ(分科大學)に入學しました。このコレツヂは、カンタベリーの大監督ラウドから清教徒主義の養成場として睨まれて居た大學で

ありました。其の學長サムエル・ワードは學識深く、良心鋭敏なる神學者でありまして、學生に對する訓練は嚴格を極めました。祖先に光榮ある宗教改革者を出し、父に誠實なる清教徒を有ち、村塾に於て神の審判は現世に於ても必らず行はれると云ふ清教徒主義の顯著な特色の一つである攝理に對する強い信念を養成されたクロムウエルはこゝでも亦清教徒の獨特の日常生活の嚴格なる訓練を受けました。

彼は學問については特に優れて居ませんでした。元來彼の才能は學究的でなく、思索に耽けることや文字の詮議をすることよりも、どうしたら現實の世界で正しく生活することが出来るかど一番の關心事でありました。それ故に彼は歴史を好んだと見え、後年自分の長男に勸學の書翰を寄せて其のうちで申しました。

手ごろの歴史を讀みなさい。數學と人文地理

を學ぶごよい、此等は神の事柄の次に益がある。……人は世のため働くために生れたのである、此等はそれに役立つのだ。懶惰虚榮に注意せよ。サー・マルター・ローリーの歴史によつて心を更新するがよからう。これは歴史の一體系であつて、個々の物語よりもお前の理解を増し加へるであらう。……知識の樹は文字ではない。思索でもない。中なる心のことで、心をそれに變化するものである。

己が子に對する此の勸學の精神こそクロムウエル自身の在學時代の研學の精神であつたと思はれます。彼は幾年大學に居たかは判明しませんが、大學を卒業しなかつた事だけは確實であります。彼の父は彼の十八歳の時郷里で死去しましたから、多分その時退學してハンチングトンに歸へり、父の仕事を受け繼いだものと思はれます。その後彼は暫くロンドンに出て、どの郷士もするやうに、

そこでは法律を学びました。郷里に於て公事に關與し、又郷里を代表して下院の議員となるには法律が必要であつたからであります。

結 婚

父の死後三年を経て二十一歳の時、クロムウエルはロンドンのごある富裕な商人の娘で、自分より一つ年上のエリザベスと結婚しました。クロムウエルに飽くまで汚名を負はせやうとする王黨の人々は、彼の妻までも悪し様に言ひふらし、『猿が緋の衣を着たやうだ』など、罵りましたが、彼の女の肖像を見ても決して醜くなく、少しも上つ調子のごころはありません。甚だ家庭的に貞淑な婦人であつたことが知られます。夫婦間の情愛は濃かた、且つ貞潔でありました。結婚後三十年、彼の女が夫に寄せた手紙に『あなたの御不在中は私の生活は唯の半分の生活で御座います』と書き、

クロムウエルは陣中に在つて多忙を極め、家郷に寄せる書信も怠り勝ちなので、彼は之を待ちわぶるわが妻に申譯して、『お前の手紙には、度々わしがお前や子供らのことを思はないやうに言つて居るのが氣に入らない。假令わしはお前をもつともつと善く愛して居ないとしても、わしは多分間違をしては居るまい。わしには誰よりもお前が大切なのだよ。これで満足をおし』。

彼の女は家庭的の婦人であつて、夫の位置が次第に高まり、事實上英國王となり、彼の女も亦王后に等しきものとせられるやうになつたことは、勿論その始め夢想だになかつた事でありまして、かくなつてからも公事には少しも關與しませんでした。誰か結婚の日に、此のロンドン市の商人の娘の其の後の數奇なる運命を思つた者がありましたか。平和なる農家の妻となつた初めは、丁度靜かな湖水にたゝえた水のやうでありました。や

がて水は湖を出て、小川となり、激湍となり、奔流となり、大河を下り、大洋に入り、天を覆がへすやうな嵐にもまれ、逆巻く大波に揺られ、海の彼方の岸にまで追しやられました。

革命が終り、王政に復古し、チャールズ二世が即位されました後、一つの紙片が閣議の席上に提出されました。それは老いたるクロムウエル夫人の宣誓書でありました。人生幾度の波瀾を経て老いた、淋しい彼の女は、國政に關する一切の公事には何事にも關與しないこと、又嘗て王宮に在りし日、そこに在つた寶石を隠匿して居るこの噂があるが、かやうのことは身に覺えがないことなど書かれて、王に忠誠を誓つたのであります。これは結婚四十年後のことでもあります。

弱者の味方

結婚後クロムウエルはハンチングトンに定住し

て、父の遺した業を繼ぎ、農事にいそしみました。千六百二十八年、彼が二十九歳の時（クロムウエルはいつも年代より一つ年上であります）、郷里からチャールズ一世の第三議會の議員として選舉されました。その年の議會では主として王の専制のため、人民の權利侵害の不法を論議されましたが、彼は之に餘り興味を有せず一言も發言しませんでした。その翌年の議會では王の宗教政策が主要問題となり、之に反對の宣言を決議しやうとして、議會は解散されました。クロムウエルが舊師ベアード博士の受けた不當の干渉を非議しましたのは此の時のことであります。彼は其の始め政治問題よりも宗教問題に熱心であつたことは之でも知られます。

議會解散後十一ケ年間はチャールズ一世の専制政治の最も甚だしかつた時でありまして、清教徒は信仰上の迫害を受け、又一般人民は租税の重荷に苦しみ、國中怨嗟呻吟の聲に満ちましたがクロ

ムウエルは議會解散後直に歸郷し、すつかり農民として家業に従事し、隣人に對し『正直なる人としてその義務を果さうと勤めた』以外何等の政治的野心もありませんでした。

さり乍ら此の物靜かなる英國の片田舎にも、當時歐洲大陸で諸國民が信仰のため鎬を削つて戦つて居る三十年戦争の大鼓の響は海を渡つて響いて來て、倫敦塔に幽囚されて居る下院議長エリオットの心臓の鼓動を高めたと同様に、クロムウエルの心胸にも反響しました。彼は戦争の成果にどの位深甚の注意を拂つたかは、千六百四十七年英國の内亂が主として彼の力により鎮定された時、彼は最早自國には用なき者と思ひ、赫々たる武動に對する國家の報酬を念はず、ドイツに渡つて、そこで戦はれて居る新教主義のために盡さんとして交渉を始めたことでも知られます。尤もその企は當時の英國の事情が之を許さず遂に之を抛棄しま

した。又彼は其の後護國卿としての外交政策に、此の戦役當時受けた印象が強く影響して居るのを見て知ることを得ます。

彼は此の戦争の個々の戦鬪の成敗を研究したと見え、グスタフ・アドルフスの戦術に甚だ似たものを、彼自身戦に臨んで使用しました。彼は知らず、知らず、後年議會軍を統帥する準備をして居たのであります。

彼は熱心に家業に従事しましたが、決して自分のことばかりに追はれませんでした。長子に遣つた前掲の勸學の書翰に書きましたやうに『世のために働く………ために人は生れ出でた』ことを確信し、常に公共のため、殊に弱者の味方となつて働きました。千八百三十年、彼の郷里ハンチングトンの町制が『民衆の騷擾を防止する目的』を以て改革されました時、彼はその不法を憤り、激昂の餘り町長を面罵し、それがため監禁されました。

偶々仲裁者あり、町制中不當の箇所は改正され、クロムウエルは町長に陳謝して和解しました。

彼は此の争のため郷里が嫌になつたと見え、翌年家財を千八百ポンドで賣拂ひ、東方五哩ウース河畔の聖アイブスに移轉し、こゝで土地を賃借して農業に従事しました。然るにこゝでも亦土地の無産者の權利擁護のために盡力しました。轉住後三年、ウース河畔の沼地の排水開墾を目的とする會社の事業が完成し、一般人民は此の地で牧畜と漁獵をなし得る祖先傳來の權益を失ひました。クロムウエルは之に大に同情し斡旋の結果、政府は該開墾事業を未完成と認めその完成するまでは人民は舊來の通り此の地を共有し、漁獵をなし得るものと決定されて落着きました。

其の後クロムウエルは此の地を去りましたが、去つた後も舊き郷里の人を忘れず之に盡くしました。此の地に接續して居る荒蕪地が一般人民の承

諾なしに、マンチエスター伯に賣却され、人民は之を不當として議會に訴訟しましたが、上院が伯の味方をしたため、人民は激昂して籬を毀ち、暴力でその土地を取戻しました。そうすると上院は軍隊を派遣して之を伯に返還せしめました。クロムウエルは人民が暴力を使用したことを不當とし自ら之に關與しませんでしたが、彼等の權利は飽まで權利として認むべきであるとし、彼の動議で下院に調査委員會が開かれました。委員會の席上彼は猛烈に議長に喰つてかゝり、議長ハイド(クラレンドン)はその『行動の荒々しく、その態度の不遜』を怒り、議會に之を報告するぞと威したことがありました。之を以てしても如何に彼が人々のために熱心であつたかを知るに足りません。

一體地方の人民は自分たちが選舉した議員が議會に於てどの位忠實に國事を論議して居るか、その所論が果して正當であり、適切であるかと云ふ

やうなことは到底充分に解かりかねますが、選出議員が其の地方のこのため、殊に其の地の一般民衆の利益のために盡力したことは、彼等によくわかり、之を徳とするものであります。クロムウェルが同郷の人々のため一生懸命に盡くしたことは、知らず、知らずの間に其の地方に牢固とした拔き難い地盤を築き上げました。彼はそれを目的としたのでは決してありませんでした。然るに同郷の人々は彼を自分らの最も信頼するに足る首領とし、諸町村で何か問題が起る度毎に彼にその救済を依頼し、クロムウェルも心よく之を引受けました。内亂が勃發した時クロムウェルは此の地方で義勇兵を募集し、之を率ゐて戦うて王黨の新聞紙から『フエン(英國中本部の沼澤)の主』と云ふ綽名をつけられましたが、彼は内亂を俟たずして既に事實上此のフエン地方の主となりました。

かやうに同郷の人々から信頼を受け、その地方

に牢固として拔き難い地盤を築き上げ、後年議會軍中の最精銳の軍隊を編成し、王軍から鐵側隊と稱せられて恐れられ、遂に王軍に對して完全な勝利を得、清教徒主義をして國を支配することを得せしめましたのは、彼が始めからそのことを計畫的に行つたのでなく、又後年武將となり、政治家となつて自分の名聲を上げるためにしたのではなく、一個の正直な人間として正直に自分の義務を思つたことを果そうとし、殊に彼が正義のため弱者を擁護した結果でありました。それは彼の正義感が之を成さしめたのであります。

同郷の人々は彼を目して自分らの首領としましたが、眞に彼を知る者は皆、彼は地方政治家でなく、熱心な清教徒でありました。彼の後年の大活動は此の清教徒的精神の發露以外の何者でもありませんでした。私は清教徒的精神とはどんなものを云ふかを説明せねばなりません。

イスラエルの民の背反

江原萬里

『汝わが面の前に我の外何物をも神とすべからず』(出埃及記二〇・三)とはイスラエルの民がエジプトから救出されてその神エホバの恩恵の記憶新鮮な時、シナイ山上モーセを通じてエホバから受けた十誡第一條である。民は皆エホバの前に之を嚴守することを誓つた。然るに約四十年を経て彼等が遂にヨルダン河を涉り多年待ち望んだ『乳と蜜との流るゝカナン』『汝の神エホバの汝に與へ給ひし地』に入ることを得た時、その神エホバに對する背信は始まつたのである。

彼等がカナンの地に侵入するや、そこに先住の諸民族が既に其の土に定着し、地を耕して穀物を作り、又葡萄無花果橄欖を栽培して酒油等を獲、彼等よりも遙かに進んだ文化生活をして居るのを

見た。多年曠野に在つて牧畜を業として粗野な生活をして居たイスラエルの民が牧畜をやめ先住民に倣ふて農業を營み、其の生活を模倣しやうと考へた事程自然の成行はない。そして彼等がそれらの者と雜居し、之を師として耕作方法を學ぶ時それと同時に思想上の影響を受けた事も亦想像に難くない。宛かも我國の昔支那朝鮮から優秀なる美術工藝を輸入したと同時に佛教の流行を見、又明治の維新以後西洋の産業方法を輸入し同時に西洋思想の影響を著しく受けつゝあると同様である。

イスラエルの民がカナンに入つて先住民から農耕の方法を學ぶ際受けた最も大なる影響は宗教であつた。カナン先住民はそれ自身の神バアルを有つて居た。バアルとは主の意味であつて土地を所領し其の土地の産物を出す自然を表徴した神であつた。それ故農業の神であつた。此の地に住む者は必ず其の支配を受け、農業に従事する者は必ず

之に年毎に雨を乞ひ五穀の豊穰を祈らねばならなかつた。此の神は我國の祖先が拜した日神なる天照大神、雨の神なる建御雷尊、五穀豊作の神なる豊受大神、子孫繁殖の神なる大國主の神等の神々を一つにしたやうな自然神であつて、各地方毎に奉祀せられ、其の地方地方のバアルム（夫）であつた。此の神を拜する事と農業に従事することとはかく密接の關係があつて、農業自身が此の神を拜する一つの儀式とさへ思はれて居たのである。

さればイスラエルの民がカナンに入り先住民に倣ふて農業に従事しやうとせば勢此のバアルを『戀慕』はざるを得なかつた。何となれば農作物は皆バアルの與ふるものであると思つたからである。

蓋彼（イスラエル）いへる言あり、我は戀人等（バアル）につきしたがはん。彼らはわがパン、わが水、わが羊の毛、わが麻、わが油、わが飲物なごを我に與ふるなり（ホセヤ二・五）。

今や我國人は農業から工業に轉じ、昔の自然神から機械の神即ち物理力の神を拜し、『彼らはわがパン……：……なごを我に與ふるなり』と云ひつゝある。何ぞ知らん。

彼が得る穀物と酒と油はわが（エホバ）與ふるころ、彼がバアルのために用ゐたる金銀はわが彼に増し與へたるころなるを知らざるなり（同二・八）。

かくイスラエルの民がその神エホバを棄て他の神ならぬ神に赴き、モーセを通じて與へられた十誡の契約に背反した時彼等の墮落は始まつたのである。エホバに仕へる道は十誡に在る至純の道德を守ることである。然るにバアルに仕へることは其の祭禮の儀式を盛大にすることである。バアルは嚴格なる道德の神エホバと異なり、自然豊穰の神、子孫繁殖の神である。バアルはそれに連添ふ女神があつた（例へばアシラ）。宛かも天から慈雨

が降り注いで大地を濡ほして五穀が實るやうに男神は父なる天を女神は母なる地を表現する。さればバアルを祭る祭禮は甚だしく肉感的であつて酒が注がれ男女相和して歌ひ賑々しく楽しくあつた。『すべての高き丘の上と諸の青木の下に妓女のごとく身をかがめ』(エレミヤ二・二〇)た。眞の神エホバに仕へず偶像を祭る者に此の風規の頽廢がある。エロは社會に横行する(民數記略二五參照)。

此のバアル崇拜は最初イスラエルの民の爲政者によつて其の民に取入れられ、後次第に民の全體に普及したのである。前にも云つたやうにバアル崇拜は農業獎勵、新文明の採用を意味する。又近隣諸族と宗教を同じくすることによつて融和實際をなし得る。されば爲政者が卒先此の新文明の輸入を創めたのである。我國に於て佛教が先づ朝廷に入り、又明治の初年西洋の文物産業が政府の指導保護によつて民間に普及したと同様である。

北方イスラエル國のアハブ王の妃は其の當時最も繁榮を極めた地中海の女王チレの町の王女であつて、彼の女がアハブ王の妃となるや其の町のバアルであるメルカトをイスラエルに迎へ入れ、エホバと併び拜し、遂には之に代へてイスラエル國の神としやうとした。バアルの預言者四百人常に王宮に王と食卓を共にした。

然し乍ら其の頃はまだ農業及び商業に従事する者少なく、その多くは牧畜の民であつて、其の拜する神はアブラハムの神ヤコブの神イサクの神なるエホバであつた。エホバはエリヤに告げて、バアルに膝を蹲めざる者七千人を遣さんと云はれた(列王前一九・一八)。彼等はエヒウを戴いて遂にオムリ王朝を顛覆し『エホバのみイスラエルの神』たり給ふことを明白にしたのである。

然るに其の後農業に従事する者が次第に増し加はり、又近隣諸民族との交通も頻繁となり之と商

業に従事する者も多くなり一般に富裕となり、その經濟狀態が變化するや土地の兼併行はれ弱者は強者のために虐げられ掠奪せられ、今まで小さき村落毎に相融和親睦して生活して居た彼等の間に貧富の懸隔著しく、然かも富者は孤子寡婦の惱を顧みず贅澤に暮し他方之に對して憎惡嫉妬は盛となつた。然かも爲政者は此の社會の不安を除去しやうと勤めず却つて不公平の政治を行ふて之を益々大ならしめた。富者の奢侈は最も甚しい

『汝等は災禍の日をもて尙遠しと爲し、強暴の座を近づけ、自ら象牙の牀とこに臥し、寢臺の上うへに身を伸し、群の中より羔羊とろとろを取り、圈かきの中より犢牛こつとを取り食ひ、琴の音にあはせて唱ひ噪ぎ、ダビデのごとく樂器を製り出し、大杯をもて酒を飲み、最も貴き膏(香水)を身に抹ぬり、ヨセフ(國民)の艱難を憂へざるなり(アモス六・三以下)。彼等は義しき者貧しき者に對して苛酷である。

義者を金の爲に賣り、貧者を鞋くつ一足のために賣る。彼等は弱者の頭に地の塵のあらんことを喘ぎ求め、柔者の道を曲げ、又父子共に一人の女子に行きて我聖名を汚す。彼等は質に取れる衣服すてを一切の壇の傍に敷てその上にふし、罰金をもて得たる酒をその神の家に飲む(二・六)。

民の爲政者たる牧伯祭司預言者も亦悉く腐敗した。ヤコブの家の首領等かしらたちおよびイスラエルの家の牧伯等公義を惡み一切の正しき事を曲ぐる者よ、……彼らは血をもてシオンを建て不義をもてエルサレムを建つ、その首領等は賄賂かじらをとりて審判をなし、その祭司等は値錢あたいを取りて教誨おしへをなす、又預言者等は銀子を取りて占卜うらなひを爲し、エホバに倚頼みて云ふエホバ我らと偕ともに在すにあらずや然ば災禍われらに降らじと(ミカ三・九)。雷に爲故者富者が墮落したのみではない。此の民全體がエホバに背いて腐敗しきつたのである。

善人地に絶ゆ、人の中に直き者なし、皆血を流さんと伏して伺ひ、各網をもて兄弟を獵る。兩手は惡をなすに急がし、……汝ら伴侶を信する勿れ、朋友を恃むなかれ、汝の懐に寝ぬる者にむかひて汝の口の戸を守れ、男子は父をいやしめ、女子は母に背き、嫁は姑に背かん。人の敵はその家の者なるべし(ミカセ・二以下)。

人々皆他を陥れやうとし、友人も家族の者も悉く敵となる。彼等の心は髓の髓まで腐つたのである。最早悔改は不可能である。

エテオピア人(黑人)その膚をかへ得るか、豹その斑駁をかへ得るか、若し之を爲し得ば惡に慣れたる汝らも善をなし得べし。故にわれ彼らを散して野の風に吹散さるゝ皮殻の如くせん

(エレミヤ一三・二三)。

滅亡は最早之を避ける事は出来ない。然るに彼等は空しくエホバに倚り頼む。彼等はバアルを拜せ

すエホバのみイスラエルの神とすると云ふ。然し乍らその拜する精神はバアルを拜する精神と少しも異なるところは無い。否エホバとは名のみであつて、彼等の拜しつゝある神の實體はバアルである。彼等は偶像を拜しつゝ、神は必らず彼等を守護し給へば永久にエホバの與へ給ふた土地を嗣ぎ、彼等はいつまでも神の民であり、その國は外よりどんな侵略があつても決して滅びることはない。空頼みする。彼等はいつか伊勢の神風が吹き來て外敵を追拂ふ事、かのイザヤの時のアツシリア軍のやうであらうと思ふ。かくして彼等は盛に神を祀る。祀ることそれが神に熱心に仕へる道と思ふのである。何ぞ知らん。

我は汝らの節筵を惡みかつ藐視む、また汝らの集會を悦ばじ。汝ら我に燔祭または素祭を献ぐるとも我之を受納れじ、汝らの肥たる犢の感謝祭は我これを顧みじ、汝らの歌の聲を我前に絶

て、汝らの琴の音は我これを聴かじ、公道を水のごとくに正義をつきざる河のごとくに流れしめよ、イスラエルの家よ、汝らが四十年荒野に居りし間犠牲と供物を我に献けたりしや（アマモス五・二以下）。

なんぢらが献ぐる多くの犠牲はわれに何の益あらんや……なんぢら己をあらひ己を潔くし、わが眼前よりその悪しき業をさり、……公平を求め、虐げらるゝ者をたすけ、孤子に公平を行ひ、寡婦の訟をあげつらへ（イザヤ一）。

神に仕ふる道は『公道を水の如く正義をつきざる河の如くに流れしめ』ることである。『悪しき業をさり、公平を求め、虐げらるゝ者をたすけ』ることである。彼等は犠牲を献げることによつてエホバに對する契約に忠實であると思ふ。然かも神は云ひ給ふ『汝らが四十年荒野に居りし間犠牲と供物を我に献けたりしや』と。否。

萬軍のエホバイスラエルの神かくいひ給ふ。……われ汝等の先祖をエジプトより導きいだせし日に燔祭と犠牲とに就きて語りしことなく、命せしことなし。惟われ此事を彼等に命じ、汝ら我聲を聴かばわれ汝らの神となり、汝ら我民となり、且つ汝等に命せし凡ての道を行みて福祉をうべしと。されど彼らはきかず、其の耳を傾けず、己の悪しき心の謀と剛愎なることにしたがひて行み、また後を我にむけて其の面を向けざりき（エレミヤ七・二以下）。

彼等の心一度眞の神エホバから離れて次第に腐敗しゆき最早眞の神を知ることを得なくなつた。然かも彼等は神殿に集り儀式を盛大にし犠牲を献げ自ら熱心に神に仕へつゝある者と思惟し、又神はかくまで熱心に仕ふる者を必らず守護し之に福祉を降し給ふものと信じて居るのである。宛かも現代人が神を棄て、最早神を知らず、然かも尙社

會の進化を信じ、世は漸次善くなりゆき遂に黄金時代が來ると空想するのと同じである。彼等は社會に不道德罪惡の存在を知る。然かもそれは眞の神エホバに背いた結果であることを知らない。此の罪の結果が如何に怖るべきものであるかを悟らない。こゝに暴露された彼等の罪戾は彼等自身之を悟つたのではない。神は預言者を遣はして之を明かにし給ひ、且つ民をして之に聽かず益其の心を頑固になさしめ給ふて神も亦彼等を棄て亡國の必至を明かにし給ふたのである。

他の諸民族の神は前にも云つたやうに、其の民族生え抜きの神であつて、その民あつての神であり、その民が齊き祀る間だけの神である。然るにイスラエルの神エホバは諸民族の中から特に此の民を選んで、彼等が契約に忠實である限りこれが神となり、彼等を民とし給ふ、一度民が契約に背き、罪を犯さんか神も亦此の民を棄てその國を滅

ぼすことを辭し給はない正義の神である。正義は國家以上なりとはイスラエルの宗教が全人類に提示した大眞理である。

之實に偉大なる永遠的眞理である。紀元前七八世紀、我國はまだ生れず、諸民族の思想甚だ幼稚であつた頃既に神はイスラエルの民族を使用して此の大眞理を世に示し給ふたのである。然かもイスラエルの民は警告され乍ら亡國に至るまで之を悟らなかつたやうに人は今尙これを悟らない。今や世界大戦争が神に背いた人類の罪の結果であることを思はず悔改めず、各國益々經濟經濟と云つて自利を追ひ第二の大戦争を迎ふるに忙がしい。彼等は正義よりも國家と産業とを重しとする。而して社會に不正不義が滿つる。神は此の背戾の人類に對しその正義を發揚し大なる審判を來らしめ給ふことは必然である。

軌近考古學と舊約聖書

(ノアの洪水に就て)

小 栗 襄 三

紀元第十九世紀に初まるアッシリヤ學 (Assyriology) の勃興は舊約聖書の史實性に、その歴史觀に、その神學觀に、その原文批評學に、前後未曾有の巨彈は投掛けられ、傳統的正統派神學の牙城は其の根底に震動を受け其の天地創造物語も、洪水記も、族長時代も神話視せられ、その宗教的價値は別問題として史實性は一片の反古と化し、その歴史的價値は辛じてモーセの出埃及に迄溯り得るに過ぎない。埃及史、バビロニヤ史、アッシリヤ史等に比すれば、神の選民イスラエルの歴史は誠に貧弱なものと成つた。乍併最近九ヶ年間繼續的にメソポタミヤ平原に一掬一掬、シャベルの運ぶ土は何を發見して何を物語るであらうか。

一八五二年の春より五四年に至るレーヤード氏 (A. H. Layard) のニネベ市 (Nineveh; Kuyunjik 現在モズール市の近傍) の第二期發掘事業はアッシリヤ王、アッシュル、バニ、バール (Ashur-bani-pal, Huzra 書四章十一節、LXX. *Ἰαερωδάρ* B. C. 668-626 『アッシュルの神の造りし子』の意なり。) 王立圖書館の發掘となり、數多くの碑文 (Inscription) と楔狀文字泥土製文書 (Uniform clay Tablet) とを土出した。其中に幾多の貴重史料を發見し、時に楔狀文字辭典、文典の出土は、殆ど紀元前四十世紀間に渡り使用せられた當文字判讀に貢獻する所大なるものがあつた。又文書中に圖らずもバビロニヤ神話の天地創世物語、洪水物語の發見があつた。當時斯學界の泰斗ローリンソン (Henry C. Rowlinson) のもとに助手として倫敦大英博物館に出土泥土製文書整理中のスミス氏 (George Smith) は此等のバビロニヤ神話の判讀に成功し、その記

述の舊約聖書中のノアの洪水と多少の差異あるにせよ、記述の骨子に於て殆ど一致するを認められたのである。

此の發見は當時の宗教界に一大センセイションを捲起した。それは傳統的に神聖視來りし聖書の記述がバビロニヤ神話の改竄であつたとされたからである。ヘブライ唯一神教は人間が造つたもの、即ち後世の聖書記者等(Priestly Code)が神學觀樹立の爲め、他國神話を借用したもので、唯一神エホバの天地創造は多神教の宇宙創始物語から暗示を得て初めてヘブライ唯一神教を道徳的に又宇宙的に立て直したのであると云ふ説が生じたのである。

斯問題が斯く論議せらるゝ間にアツシリヤ學は益々その基礎と道程を踏み固めつゝ、數多くの貴重史料を舊約聖書に與へてゐた。チョーヂ・スミス氏に依る此問題が提唱せられし後、學者の研究は此のバビロニヤ神話の源泉問題へと移つて行つた。

其後ニブア等(Nippur)の發掘の結果はスメル文化(Sumer)即ちアブラハムの故國)の研究に溯りバビロニヤ神話の源泉はバビロニヤ王國以前のスメル王朝に發祥せる事が明瞭となつたのである。然してスメル傳説研究の結果、レグレン・クレイ教授等(L. Legrain, A. T. Clay)は此の洪水物語は洪水に起因せず、現在のバビロンより波斯灣に至るメンボタミヤ南部の旱魃に由る萬物枯死状態より起りしならんと言張した。

乍併、スメル王朝の年代記者はその中に明白に大洪水に頼る王朝の杜絶を物語つてゐる。即ち、『八王、五都市に君臨す、時に大洪水來る。洪水の止みし後、王位は再び天より降臨せり』。

(Larsa List No. 1) と既定の事實として取扱て居り、又數多くのスメル泥土製文書も明瞭に當時の文化の中心地が洪水により破壊せられしを物語つて居る。只此れを一神話とするか、又事實とす

るかに就ては多くの疑問あり、歴史家はその確證を得るに悩んだのである。

然るに、一九二二年大英博物館と北米合衆國フイラデルフイヤ市、ペンシルバニヤ大學博物館の提携より成るレオナルド・シー・ウーレー博士

(Leonard C. Woolley) 統監のメソポタミヤ協力發掘隊は莫大なる費用を投じて大組織のもとに學究的にカルデヤのウル(原語にてはウリイ)を發掘し初め、毎年數多の貴重史料を學界に提供してゐるが、一九二八、二九年に於けるウル先史王朝墳墓發掘の爲めに二百呎に渡り深さ三十呎より四十呎に至る試堀大堅穴を作り土砂を移送せし時、其處に地層及地質の變化を發見した。此層内に含まれる全土は竈の灰、薪木の燃えさし、土器破片、燒煉瓦の破片、又は有機鹽により赤黄色を呈して還元せるもの等の遺物を示し、猶遺物は一定方向に流走状態なし、建物又は壁側に阻止せられし場所

は明瞭に溝狀を作る等大洪水の跡を物語つてゐるのである。然して全土は北西に向て流出し、此の地層内よりの出土品は明らかにウル先史王朝時代(紀元前約三千五百年)以前の時代に屬し、ヨリ原始的形態を示してゐるのである。地層は四十呎の深度を示し明白に數世紀間に渡る大變動を物語てゐる。勿論當メソポタミヤに於ける二大河チグリス、ユーフラテスは週期的に氾濫するを常とするも未だ曾てかゝる大洪水を見ず、又城壁を越せし例を見ないのである。四十呎の洪水地層下には全く相異つた清淨なる地層を發見し其處にはウル先住民族とスメル人混合遺物を獲たのである。

斯して明白に此の大洪水が、スメル史に又洪水傳説となり、後世ノア洪水記の骨子を構成する證據を得たのである、乍併當發見はスメル及ヘブライの洪水記そのままの正確なるものではない、ノアの箱船を出土したのでもなければ、又全地が水

に覆はれたのでもない。洪水は兩河の下流地方のみであつて昨年度發掘等を參考にする範圍は長さ四百哩より幅さ百哩位の地境しか現在では認め得ない。然し此地方は當時の文化の中心地帯であつて、洪水により破壊せられしは確かな事實である。

然して當地層内及下層より出土せし土器遺物等の研究よりウルにスメル人が移住する以前既に先住民族の一團があり比較的道德的の民族と思はるゝ、スメル人と共同又は奴隸的生活を送てゐる時に大洪水來り當民族は滅され、スメル人が先住民族に代つて洪水後燦爛たるスメル文化を建設し、第三王朝のアブラハム時代にはその最高期に達してゐたのである。此所に附言せねばならぬ事は此のスメル人は純粹民族ではない。此の内にセム系族が含まれてゐた。即ちアブラハムは此の系統に屬するものである。此後セム系族はバビロニヤ、アツシリヤ、カルデヤ王國を建設し、又一方アブラハ

ムの部族はバレスチナへと移住し其所に後ちのヘブライ民族を形成するに至つたのである。

又此のスメル人が何處からウルに移住したかの問題は最近インダス河畔の發掘と相待ち興味ある問題を投掛けてゐる。

斯如く、アブラハム時代（紀元前約二千年より千九百年頃）を溯る事凡そ十數世紀以前に前後未曾有の大洪水があり先住民族は滅されセム族が古代文明社會を作りしを知るならば、聖書の詳細なる記述の相異如何を問はず、廣義に於ける聖書記述の史實性は洪水記迄溯れるものと云へるのである、此の洪水は今や舊約聖書に多くの問題を提示するものであると同時に我等の信仰にも亦多くの暗示を與へるものである。

自由を失ひし人

藤 本 武 平 二

汝等もし常に我が言ことばに居らば眞にわが弟子なり。また眞理を知らん、而して眞理は汝らに自由を得さすべし。

(ヨハネ傳八章三十二節)

○人間の尊いのはその自由であるといふことにある。自由を失うて人は人としての尊さを有しない。然し世には眞の自由を有する者極めて稀である。多くの人は既にその自由を失つてゐる。而してその自由を失つたことに一向無頓着である、多くはその自由の失はれてゐることにすら氣附かない。

○自由を失つた人間に二種がある。一つは他から強制的に自由を奪はれた人であり、他の一つは任意に自由を放棄したか或は知らない内にそれを遺失した人である。囚人とか奴隸とかは前者に屬する者であつて、パリサイ主義者とカトリック主義者と教會主義者とは後者に屬するものである。前

者は人が法律と道德とに反いた結果であつて、後者は人間が神に反いて偶像を拜した罪の結果である。而して後者の數は前者よりも遙かに多い。

○神の宇宙を造り給ひしは、神の自由を有する人を以て世を充たさんためであつた。神は奴隸の解放に南北戦争を起し、パリサイ主義よりの解放にキリストを遣はし、カトリック主義よりの解放にルーテルを起し給うた。而して教會主義の解放に内村先生を立たしめ給うたのである。

○然しサタンは今も尙ほその魔手を緩めない。曾て蛇オカシを以て人祖アダムとエバを誘ひ、人たるの自由を奪つたやうに、彼は今、自由々々稱して人を放縱の野に誘ひつゝある。獨立々々稱して人を神より孤立せしめんごしつゝある。無教會主義と稱して人を無教會的宗派の中に幽閉せんごしつゝある。怖る、再び無教會主義打倒のため第二の内村先生を起す必要の日の到らんことを。

勤勞の生涯と一雙の屏風

江 原 萬 里

新聞の三面記事の報するところによれば、此の程某驛長の勤續四十年の祝賀會が開かれ、席上驛長は述懐して云つたさうである。

自分は最初驛夫から勤めて今に至るまで滿四十年、其の俸給總額は三萬餘圓であつて、之が私の殆ど全生涯の勤勞の報酬總額である。私の驛には舊から所藏せられて居る一雙の屏風がある、誰が書いたのか落款がないが此の屏風は今では時價四萬圓の事であつて、私が一生涯眞面目に殆ど一日も休む事なく勤めた生涯の價値は此の何もしないで驛に所藏されて居て年々その價格を増す屏風一雙に達しなかつた。然し何しろ長い年月の間働いたのであるから大分貯蓄も出來たであらうと云ふ人もあるが自分には十人以上も子供があつてそ

の養育費に取去られ貯蓄は殆ど出來なかつた。

私は此の記事を読んで多大の興味を感じた。先づ第一に、此の驛長が精勤四十年の生涯を送つた事は確かに其の俸給總額三萬圓以上の價値があると思ふ。驛長が自分の一生を屏風一雙に比較して其の時價にも足りないと思つたのは尤の事であると思ふ。然し乍ら誰でも眞面目な生涯を送つた者のその報酬は決して彼が受けた俸給でなく、彼の貴い生涯その物であることを知らねばならない。己が一生を只金儲けと蓄財とに費した人の價値はその儲けて蓄めた金で計られるであらう。然し乍ら或る崇高な目的のために高貴な動機からして、美はしい生涯を送つた者のその一生の價値は決して其の者が得た金錢上の報酬、ましてその死後に遺した貯蓄金額を以て計算することは出來ない。主イエスは十字架の上に死し給ひ、その唯一の遺物である衣は無情冷酷なるロマ兵卒の間に籤引

された。パウロも亦其の晩年の所有はトロアスに遺し置いた外衣と數卷の書物とのみであつた。自分の眞面目な勤勞に對する俸給の少ないこと。何の貯蓄も出來ず又何の遺産もなかつたことは、その人の生涯の價値を定める何の標準にもならない。眞面目な義しい生涯を送り、自分の存在が少しでも人々の益となつたならば、その高貴な生涯こそその人の一生の勤勞の報酬である。かゝる一生を送り得たことをこそ我らは感謝すべきである。

第二に感じたことは、此の驛長は自分の一生の俸給が屏風の時價に達しない事を嘆じたが、屏風の價格は只評價された數字である。然るに驛長の俸給は單なる數字ではない。四十年の長い間自分とその家族を養ひ育て、其の子女に善き教育を施した實際の生活であつた。二者共に金錢上の數字を以て言現はして居るが、一方は死せる數字で他方は活ける生活である。驛長は此の金を消費し盡

くして殆ど貯蓄して居ない事を嘆じるが、消費したればこそ活きたのである。

彼は子供の養育に追はれたと云ふ。視よ、彼の受けた俸給は十人以上も人間を作る爲に役立つたのである。數字を印刷した紙片は彼の右の手に受けて左の手から出て往つた。然しその眞面目な勤勞の生涯の終りに彼は十人以上も立派に育てた子女を有つて居る。彼が一人の子女にも善き教育を授けず、つまらない人間としておいて、その俸給と利子との銀行通帳を遺して死んだとせば如何。眞に憐れなる生涯ではあるまいか。

第三に私の感じたことは、自分の四十年に亘る勤勞と驛に所藏せられて居る屏風とを比較して自分の一生よりも死せる屏風の方が高價であること云ふが、此の屏風は只の布と木片ではない。屏風の高價であるのは之を書いた畫家の優れた技能のためである。それが年々眞價を發揮して來たのであ

る。之を書いた畫家は無名の人であると云ふ。生前無名の畫家の技能がその死後に至つて認められて來たのである。多分その人は之を書くに多大の苦心をし、然かも正當に報いられるところなくして死んだ人であらう。それに比べて見れば驛長の勤勞にはそれ相當の金錢上の報酬あり、一家を支持し、多數の子女を教育し得た事は餘程の幸福と云はねばならない。

第四に、前に述べたやうに、此の屏風を單に布と木片と見てはならない。其の背後に在る之を書いた畫家の技能とその生涯とを見なければならぬ。然し乍ら屏風其の物は死せる布と木片である。此の屏風と此の屏風を書いた畫家とは同一物ではない。之を書いた畫家は書かれた屏風よりは遙かに貴くある。若し屏風の時價が次第に増せば増すだけ、之を書いた畫家の人物は益々それ以上に認められて來たのである。凡てそれを造つた人は造

られた物より貴く人物はその人の事業以上である。されば人物を造ることは、凡ての事業に優つて貴い。彼は間接に多くの事業を成す者である。驛長がその收入を貯蓄することなく、又之を以て屏風を買ふために使用せず、人間を作るために使用し盡したことは、得たる收入を最も價値あるものとしたことである。その金額は三萬餘圓で何に使用するも變りはないが、人間を作るために使用した三萬圓は活きて年々その價値を増してゆくのである。他の物に費せばその物は遂に消耗される。然し乍ら、之を眞面目な生涯と十人以上の子女の教育に費した事は、百年二百年を以て益々其の効果が出て來るのである。其の價値は之がために使用した俸給總額三萬圓を以て計る事は出來ない。人は徒らに減俸を嘆じてはならない。今までどう云ふ考で之を得、何に使用し來たかを考へるがよい。

柏 木 通 信 (第七信)

齋 藤 宗 次 郎

○日曜日の集會 七日の首に安息日を設け給ひし神の御心を考ふる時に、五十年の人生を波瀾重疊の世に送る人間に取りて、如何ばかりの恩恵なるかに感激し、ア、天に在す我儕の父よと呼んで讚美の歌を奉らぬでは居られないのである。神は又我等小さき信徒の靈を器として其尊き御聲を發し給ふた。

神の攝理(下)

大島 正健

信仰と行爲

山榊 儀市

加拉大書の精神

小栗 襄三

無抵抗主義

藤本武平二

内村先生の弟子

齋藤宗次郎

○石河光哉氏の渡佛計畫 石河氏の洋畫の天分は、蓋しパウロの天幕工たるが如きものであらう。氏が若し美術界を唯一の本陣として、其活力を進めたならば、多分既に大家の列に加はつて居るであらう。然し神の恩恵によつて、生活の中心を信仰に置き、名利を糞土の如く思ふに至りしは、獨立を愛し自由を重んじ、神と人類との爲に生涯を獻

げんとする目標に向つて前進すること、なつた。氏は夙に彩筆を握つて三たび世界を旅し、到る所の民族に對して同情の眼を注ぎ、掬すべき念願と經驗とを胸中に蓄ふるに至つたものである。今回新たに使命を感じ、準備の成るを待つて佛國に渡り、愛すべき人々に向つて十字架の純福音を傳へんミすと聞く。其信、其愛、其望、眞に人よりに非ず又人に由らず、只イエス・キリストに由るものなるこを見らる。此美譽を知る教友が協賛畫會を興して、氏の渡佛を助けんとするは、單に氏の爲に止らず、名譽ある此事實に參加して、少しにても基督の爲め國の爲にせんとする信念に出でしものである。

○永井久録氏夫人の永逝 難症胃癌の爲め久しく病床に就かれし夫人は、胃腑切り取りの大手術後、不思議にも五ヶ月餘に亘りて平癒に向ふの容態を示した。夫人は此特別に賜はりし靜かなる期間に於て、靈性の爲に驚くべき御恵みに預つた。枕頭に於ける夫君の祈と聖書の話とは、饒土に蒔きし種子の如き結果を見るに至つた。執拗なる癌は更に食道を侵すこと、なつた。然れど己が身の最善の境に置かる、を悟りし夫人は、肉の一切を提供するを敢てせられた。五月十七日午前十一時全力を籠めて父なる神の御名を

呼び求めつ、愛する人々と最後の別れを告げた。齡五十三歳。夫人は日光の教養ある家庭より嫁ぎ來りて以來、日夜忠實に家庭を守り、家人の爲に一身を犠牲にして、克く日本婦人の特色を現はしたのである。永井氏は高き信仰の下に種々の事情を考慮して、一切葬儀の形式を廢し、別に故人に對する愛と禮とを竭すの途を執つた。眞理の應用は、獨り死に關しての方法に限らず、萬事獨創的にして精神の充實せんことを望むものである。我等は、同氏が固く信仰に立つて何物にも囚はれざる行爲に出でしを感謝せざるを得ない。

○モアブ婦人會 明治四十五年三月、即ち内村路得子嬢永眠の翌月、彼女を紀念する爲に始められし恩師命名の會合である。規則とか義務とか命令とか習慣とかによつて動く會ではない。イエスの愛の血汐が活かす姉妹等の集りである。月々各家庭を持ち廻る仕方は洗足會と同様である。五月例會を横濱本牧なる青盛姉宅に開いた。山榊姉との共同開催であつた。山榊船長の好意によつて、當時入港中の外國汽船を案内され、海岸の旗亭にて中食を濟したる後三溪園を一巡して四時開會。一同心を新たにして讚美を奉り、聖書朗讀祈禱の後、使徒行傳四章の研究に移つた。最

初全章を輪讀、次に恩師夫人其概論と所感とを述べられ、それより小林、松田、伊藤、植木、山口、小平、名古屋、藤本、齋藤、山榊、青盛の順序に所信所感を發表し、恩師夫人の祈禱を以て閉ぢ、晚餐の一時を平和歡喜の下に過したる後、神の變らぬ恩恵を感謝しつ、七時各自歸途に就いた。堅實なる信仰の集會を持つといふことは、如何に信者の信仰と愛の増進の爲に幸福であるか知れない。婦人の集會といへば、殆んど低級の趣味、娛樂、社交等に流れて臭氣紛々を免れざるを常とする時に、獨此會にあつては、二十年の生命を保ちて終始敬虔と平和と熱心とを持續し來つた。是れ全く主の特別なる御守りに因るものなることを信ぜざるを得ない。如何に小さくとも此種の集會が、各地に起らんことは我等の切に祈る所である。

○加藤長次郎氏歡迎祈禱會 二十年前來南洋ジャヴァ島に居住し、恩師一たび病牀の身となる、を聞くや、其病狀を月々の研究誌上に讀んで萬一の日の迫るを氣遣ひ、終に訃音に接するに及んで、故國の天地俄かに闇に閉ざれし感を懷きし同氏は、其後愛國の情頻りに動き、せめて記念會に列して偉業の感化進展の様を觀、併せて謝恩の意を表せんものと、此春歸國すること、なつた。我等教友は此珍

客を迎へ、更に該島三千の邦人中、只獨家人と共に基督の命に従つて、謙遜に勇敢に信仰の生活を送り行く氏の爲に祈らんことは衷心の願ひである。五月廿二日夕、淺野氏の斡旋によりて、駿河臺女子青年會の一室に會合を催すこととなつた。會する者主客十五名。清談の間に執りし晚餐の後、淺野氏の司會にて先づ一同神を讚美（三二一番）し、二十五年前角筈夏期講談會席上、恩師によりて聲高く朗讀し説明されし詩篇一二三篇に其眞意を味ひ、司會者起つて加藤氏のジャヅア島に於ける生活と使命とを述べて、開會の趣旨を明かにせられた。次に加藤氏先づ一同に對して好意を謝し、それより自ら東京及び地方の教友を訪問し、内村先生の傳へし純福音の力の躍動を目撃して、國の爲に心を強うし感謝に堪へざる旨を語られた。數名の祈禱三〇九番の讚美の後、藤本氏の感謝の祈を以て靈感溢るゝ間に一と先づ閉會し、尙青山、池田兩氏の感想あつて九時散會した。主に在つて互に相愛することは信徒の務めである。

○ギリシヤ語聖書研究會 數年前塚本先生が内村先生の深き賛同を得て柏木聖書講堂に於て開始せられしもの。目下祐天寺なる吉原氏宅を會場となし、A B C D E F 組出席會員七十餘名に達して居る。其會員の年齢、職業、階級の

差異の著しき點、研究目的の高尙純潔なる點、教授法の獨得なる點は、管に日本國內に類例なきのみならず、世界に於ても恐らく唯一のものであらう。ユダヤに起りしイエスの福音が、新たに日本を發して將來萬國の民を甦らすに至る爲に、離すべからざる使命を帯び居ることを思へば、西日本に於ける黒崎先生のギリシヤ語講座の事業と共に、凡ての教友が其存在を知らざるべからざる、否祈らざるべからざる事實の一たるを痛感するものである。

○洗足會例會 五月三十一日午後一時半、小宅に於て開く。初夏の珍果草苺の眞盛り。幾千の紅玉芳香を漂はす中に、主に在る教友を招き得たるは大なる喜悅満足であつた。小園の苺は消すべからざる歴史を有して居る。余は廿三歳花巻の地に住し、恩師によつて罪惡の汚泥のまゝ、主の十字架の前に導かれた。其後數年余が肺を病んで死に瀕したる時、恩師にオゾン療法を紹介せられて、僅々一ヶ月の間に肉體までも復活せしめられた。余は何を以て其鴻恩の萬一に酬ゆべきか、願くは祈りつゝ、額に汗して土の産を呈せんものをと。即ち札幌より少許の苺苗を取寄せて之を手作し爾來二十餘年間贈呈を續け來り、余が大正十五年秋東京移住の後、滿圓の綠葉の間に踊る累々たる紅果の前に、親

しく笑顔の恩師を迎へたのである。而して今や多年恩師に愛育せられし教友諸兄と共に、其風味を賞して恩師の心を偲び、且つ互に睦み合ひ得たるは何たる天眞の光景ぞや。折館を取つて中餐に當て、三時一同聲を合せて聖愛を讀し祈禱を捧げて後、余（無意味に過せし攝理の過去が年毎に神の聖意を示し來る）、藤本（十年間忍んでやつて見よとの先生の言は耳に残る。美はしき天然、恵まれたる環境、信仰と愛によつて感謝の生活を送る）、永井（馬太傳五、六、七章は單に美訓として眺むべきでない。祝福されし信者に取つては自然實行は可能る）、寶田（内村全集は未曾有の大業である。之が爲に共に祈らねばならぬ）、渡邊（社會事業をして精神的に功を納むるには基督の愛によるの外はない）、山樺（信賴、誠實の生活を送る者に主は恵みを施し給ふ。過去一ケ年を追懐して感謝に堪へず）、日吉藤本（數を思ふて動くは俗、實を重んじて起つは正し）、名古屋（妥協の魔を斥け私共は只美はしき供物を携へて神の大庭に至るべきである。詩篇九六）、田村（内村全集の上に加へらるゝ恩恵を聞いて感謝す。現世の苦難は信者に取つては益なり）、石河（信仰に愛を兼ねるの必要。我が佛蘭西進出につき教友の同情を謝す）、藤澤（先生は辯護を嫌はる。洗足會の保つ

愛の一致は貴し。石河兄の渡佛は先生の願はれし外國傳道の初穂のパン）。五時再び讚美歌を献け藤本氏の感謝の祈を以て閉會。本當に主一つ、信仰一つ、教會一つである。

○恩師夫人の西下 六月三日朝八時半關西に向つて出發せらる。大阪なる故今井樟太郎氏廿五年記念會に列せんとするは主なる目的であつて、其他幾つかの用務を京阪神の間に果せば、月の中旬頃には歸京せらるゝ筈。日を経る毎に恩師の生涯に特殊の光を認めらるゝ、夫人には、勉めて多くの教友に會ひて、共に信仰の確立を計り、愛の交換を敢てせられんとするは、眞に贊意禁じ難きものがある。

○地方雜信 東北は日本の尻尾である。文化の程度は中央又は西南に對して比較にならない。然しながら聖靈一たび其野を潤す時に、死骨の躍る壯觀を呈して、頭胴と共に神の御用に立つは事實である。五月上旬余は親しく之を目撃して奇しき恩寵に驚いた。彼等は何れも信仰苦戰の經歷を有する屈指の信徒たるに拘らず、靜肅を愛し、潜伏の態を保つて居るから今は精細の報道を敢てすることを憚る。花卷なる照井眞臣乳氏は三十年の長き間恩師の教導に従つて十字架の信仰を守り、昨春教職を去つて、急がずに休まずに意味深き歩みを踏んで居る。隣村の工藤氏も亦奇拔を

避け、名聞を擲つて聖書と土に親しみつ、農民の友たる使命を遂げつゝある。盛岡なる水野氏は曾て専心北米に學びしものに身を托せず、純福音に全靈全身を委ね、獨立自由の立場を明かにし、夙に夫人と諧つて内村全集刊行の曉には二食を斷行して之を購ふに決したるを仄聞した。水澤なる山崎氏に至つては眞に隠れたる人、探し當てるに困難である。二十餘年前米國の天文臺に居る頃から恩師の著書を讀破し、信仰の眞義を心奥に蓄へ、毎夜悠遠の大宇宙に望遠鏡を向け、獨神と偕に在つて緯度の觀測に従事して居る。同町驛前なる池田姉が、來る年も來る年も試練の荒き波に揉まれながら、千歳の岩に固く縋つて離れざる健氣の姿を眺れば同情の涙に眩れる。黒澤尻なる芳野氏は一見する所誠に温順なる青年であるが、その境遇よりして戰ふべく立てられたるを免れない。學生時代、軍隊時代の戦ひを始めとし、教會、家庭、社會、病魔との無抵抗主義の苦闘を十年も續け來つたのである。夫人が難症に犯さるゝと共に、一家暗雲に襲はれ、之が爲に一層の悩みを感じしも、主の御手には永劫の勝利あり、祈を受け給ふ神は其愛する者選びし者を棄て給はず。夫人の病は日毎に重なるのみなるに、靈魂は活火の如き勢を示して、咒はれし過去は祝福と變じた。

信賴と希望を慰安と内に燃えて愛の言葉は居並ぶ人々の上に撒かれた。讚美の歌は唇を衝いて湧いた。斯くて彼女は臨終の病褥を圍む多くの人々の前に、主の十字架の生命を立證して潔く父なる神の御許に歸り去つた。眞に莊嚴の極、美はしき生涯の終結。誰も彼も只沈黙、只敬服。芳野氏の多年の戦ひは夫人の光輝ある死によつて解決の稔りを舉げ平和勝利の一段落を告ぐるに至つた。今し頌榮の凱歌は日本の尻尾より起りて高く天の極にまで響き渡る。弱き一婦人の死は何事ぞといふ勿れ。黎明密かにイエスの墓を訪ねしマгдаラのマリヤや、河の濱に立つてパウロの教に心を用ひしテアテラのルデヤに對して當時誰人か其態度に眼を注ぎ其心境を筆にせしものぞ。芳野夫人は富める家に嫁し此町に於ける最初の基督教式結婚者として注目され、屢々難病に罹りて人々を煩はし、爾うして今や基督信者の最初の死を遂げたのである。基督教に好意を持つ人、反對する人、疑問を懐く人等幾千の町民舉つて其瑣細の點にまて一々注意を拂つたのであるが、其美はしき理想的の臨終と愛に盈てる死人の扱ひと精神溢るゝ簡素の告別式に由つて迷妄を一掃したる働きは、大監督も大神學者も到底爲し得ざる所である。寔に神は弱き者を用ひて其力を現はし給ふ。

編輯餘録 主 筆

○『聖書的現代經濟觀』の印刷が意外に手間取り諸所から督促を受けたが先日漸く出版するを得たところ讀後の感想を書き送られる人多く私は多大の歡喜と感謝に滿されて居る。此の書の出版は始から終まで田村君が全く献身的に盡くされた御蔭である。私は校正が大きらひであるが田村君は再三再四之に當られ幾度讀んでも面白いと云つて居た。私は此の書が多く賣れやうとは豫期しない。只少數の眞摯な人々を訪ね、その人と語り、何物かを其の人の心に遺せばそれで私の願は滿されるのである。一無名人の足跡を此の世のどこかに留め置き度いと云ふのが此の書を世に出した動機であつた。

○私は數日前郷里から三國志五十冊を取寄せ毎夕一冊宛讀むのを楽しみにして居る。私は現代の小説に殆ど興味がない。殊に女の方が威張つて居て男の方が女の尻について憐を乞ふ現代の戀愛小説には胸くそ悪くなる。それに比べると三國志は男性的で面白い。風雪を冒して三度孔明の草廬を訪づれる劉玄德、槊を横へて詩を賦す曹操、一敗地に塗れて落ち

ゆく曹操をその舊義を懷ふて之を見送す關羽等實に面白い。

○私が子供の時愛讀した書物は水滸傳と西遊記とであつた。多分五六回は通讀したであらう。此の二書によつて害も受けたであらうが澤山の益を受けた。今も尙讀んで見度く思ふのは此の二書であるが最早之を得ることが出來まい。梁山泊に百八人の豪傑が天に代つて義を行ふと云ふ旗印の下に集まつたのは面白い。三國志と云ひ水滸傳と云ひ支那人の政治上の理想がよく解る。現代の支那の有様も昔も大した變りはないやうである。支那人を理解するには今も尙良書であると思ふ。

○西遊記は佛教哲理を背景として書いたものである。一瞬間に十萬八千里を飛ぶ智の表徴である孫悟空が釋尊の掌中から高く天上に上り雲間に五大柱を見て之に自己の名を署して降りて來て釋尊に之を誇つた。釋尊は笑つて之を見よと指を示せば五大柱と思つたはその指であつて、彼は釋尊の掌中を蠢動して居たに過ぎなかつた。私はこんな書物で子供の時代を養はれたのであつた。

○今は殆ど洋書ばかり讀んで居るが、私は多讀しない。それだけの精力もなければ能力も

ない。私は大抵の書を少なくとも二度は必らず讀む。三度讀むのが普通である。それでやつと著者の意のあるところを理解するのである。だから今まで讀んだ書物の數は甚だ僅少であるがその一つ一つが私には親しい。

○私は現存人物の批評を書かない事にきめて居る。それはその爲に益するよりも害を與へる事の方が多しと思ふからである。殊に誤を傳へる時は其の人の迷惑となるのを惧れる。史上的人物ならばこの危険は全くない。大人物を批評する事は自分の力を試めすことであつて、どの位それを解したか、否解して居ないかの試験の答案のやうなものである。目下書きつゝあるエレミヤとクロムウエルについて其の感を深くする。

○今月號の小栗君の論文は興味がある。今後その寄稿を掲載する事になるであらう。舊約聖書は古古代史の研究を刺激したものはない。その研究の結果一時聖書の眞價を疑はれたが今では一段それを高めつゝある。我等は少しも高等批評を怖れない。我が日本民族の起原についても今後聖書が日本人の書となる時驚くべきものを發見するであらうと思はれる。此の名譽は多分基督者に歸するであらう。

江原萬里著

聖書の現代經濟觀

四六版總布裝函入二百八十頁
定價一圓二十錢 送料八錢

出版匆匆好評、『數頁よみゆくうちに迫力の身に沁むを強く感じ申候』と云ひ『待つこと久うして御著拜受、既に生るべくして未だ世に出てざりし近來の良著と覺え申候、實に適はしき我らの良き代言者を得、え云はぬ心強さ、同情交感共鳴の悦を禁じ不能候云々』等等。

内容抄録

地を嗣ぐ者は誰ぞ。故郷歸還。運命が攝理か。ガリラヤの春。士族の商法。胃の勝哲學。鈴木馬左也翁。ロイド・ガリソン。基督者は何者か。後篇 富の増進。

内村先生記念出版

洪水以前記

定價七〇 送料四

創世記第七章の獨創的研究、現代科學と聖書の啓示との關係につき暗示に富む。

歡喜と希望 定價 三〇 送料二

自然と人生とに對する美はしき心境の表現にして多くの人々に愛讀せらる。

モーセの十誡 定價 上製八〇 送料四
並製五〇

基督教道徳の根源を明かにし、現代の個人及社會生活につき教ゆるまゝの深し。

復活と來世 定價 六〇 送料六

基督教の來世觀を明かにし、愛する者を失ひ悲痛に悩む者に慰安と光明とを與ふ。

以上 受次 聖書之眞理社
振替東京六三三七五番

本誌舊號提供

本誌舊號中數號を除く外殘本相當多數にあり、又本年一月號より五月號までは書店賣殘の返本が大分あります。若し本誌の愛讀者諸君て之を傳道用に又は本誌の紹介用に使用御希望の方ならば本社宛申越し下さい。又宛先を申越あらば當方から直送します。幾部にて一部一錢以下無代で差上げます。當方て反古にするよりか幾分ても福音を知らない多くの人々に之を知らせるため利用し度くあります。

聖書の眞理定價 (送料共)

一 部 二 十 錢
半年(六部) 一圓十錢
一年(十二部) 二圓十錢
海外一年分 二圓六十錢

拂込は振替東京六三三七五番
聖書の眞理社宛のこと

思想と生活 合本

第一卷 二 圓 送料八錢
第二卷 一圓八十錢 送料六錢
第三卷 二圓三十錢 送料八錢

昭和六年六月二十七日 印刷
昭和六年七月一日 發行

神奈川縣鎌倉町扇ヶ谷三四三
編輯印刷 江 原 萬 里
兼發行人

發行所 聖書之眞理社
東京市外濠谷町向山九七

印刷所 一粒社印刷所
名古屋市中區流川町一八

發賣所 獨 立 堂 書 房
東京市外柏木九四六

(昭和三年二月十六日)
(第三種郵便物認可)

聖書之眞理 第四十五號

昭和六年七月一日發行
(毎月一圓二日發行)

本誌定價二十錢